

ほ

ど

な

く

、

お

別

れ

で

す

「またね」と交わした約束、あれが最期になるなんて

「ありがとう」って、いつか言いたかったのに

伝えられなかった「さようなら」

どうしようもない哀しみや、尽きる事のない後悔

それでも前を向いて、いま、区切りのためのお見送りへ

「いつか」は、きっとやって来る

また会える、その日まで



浜辺美波 目黒蓮

原作：長月天音「ほどなく、お別れです」シリーズ（小学館文庫刊）

脚本監修：岡田恵和 脚本：本田隆朗 音楽：亀田誠治 監督：三木孝浩

配給：東宝 ©2026「ほどなく、お別れです」製作委員会 ©長月天音 / 小学館

2026.2.6 Fri

誰もが経験する、大切な人との別れ。2人の葬祭プランナーを目指すのは、最高の“区切りの儀式”。

「ほどなく、お別れです」に込められた、 本当の意味とは——？

“小学館文庫小説賞”の大賞受賞作で、現在累計40万部を突破している
「ほどなく、お別れです」シリーズ(長月天音 作／小学館文庫)。
とあるきっかけで葬儀会社に就職したヒロインと
指南役の葬祭プランナーがタッグを組み、
「最高の葬儀」を目指す物語を
日本最高峰のスタッフ・キャストが集結し、待望の実写映画化!
新人葬祭プランナー・美空役に、浜辺美波。
彼女を厳しく指南する漆原役に、目黒蓮。
今最も注目を集める二人が、初共演となる本作で
見送る人、そして逝く人にも寄り添う葬祭プランナー役を
W主演として真摯に演じます。
脚本は、数々の名作を世に送り出してきた岡田恵和の監修のもと、
連続ドラマを中心に良質な作品を多く手掛ける本田隆朗が
感動のストーリーを紡ぎだします。
そして監督には、『今夜、世界からこの恋が消えても』(22)をはじめ、
数々の青春映画を大ヒットに導いてきた三木孝浩。
青春時代の輝きや切なさを描いてきたこれまでの作品経験の集大成として、
本作を全世代へ向けた圧巻のヒューマンドラマへと昇華させました。

Story

就職活動で連戦連敗の清水美空(浜辺美波)は、
葬祭プランナー・漆原礼二(目黒蓮)と出会い、
導かれるように、葬儀会社「坂東会館」でインターンとして働き始める。
教育係となった漆原からの厳しい指導の数々に
日々心をくじかれそうになる美空だったが、
彼の遺族や故人にとことん寄り添う心遣いや所作、
そして出棺のときに優しく「ほどなく、お別れです」と告げる姿に
いつしか憧れを抱くようになる。
永遠の別れは、誰にでもやってくる。
残された遺族だけでなく、故人も納得できる葬儀とは何か?
美空は、漆原と一緒にその問いに向き合うなかで
彼の背中を追いかけるように、自身も葬祭プランナーを目指すことを心に決める。
そして漆原もまた、そんな美空の姿に徐々に信頼感を覚え、
二人は「最高のお見送り」を目指し、数々の葬儀に向き合っていく。

—— 葬祭プランナーとは? ——

遺族の希望に沿って故人に合った葬儀を提案し、
全ての手配と進行(葬儀の段取り、会場設営、式の進行など)を
執り行う仕事。

2026年2月、最期の瞬間に奇跡が起こる。心震わす命の物語、ついに誕生。